



# 平成 17 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況(連結)

平成 16 年 8 月 13 日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社

(コード番号:9715 東証第 1 部)

(URL <http://www.trans-cosmos.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長兼 COO 奥田 昌孝 (TEL:(03) - 4363 - 1111)  
責任者役職・氏名 執行役員経理財務本部長 荒木 正敏

## 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無  
最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

(内容)

・連結 (新規) 1 社 (除外) 2 社 ・持分法 (新規) - 社 (除外) 1 社

## 2. 平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日)

### (1) 経営成績(連結)の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 1 四半期	23,124	28.2	949	2,752.4	2,723	411.2	2,177	966.3
16 年 3 月期第 1 四半期	18,036		33		532		204	
(参考)16 年 3 月期	77,918	9.6	2,945		2,065		952	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 1 四半期	93	85	92	54
16 年 3 月期第 1 四半期	8	37		
(参考)16 年 3 月期	39	34	39	22

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率であります。

### [ 経営成績 ( 連結 ) の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第 1 四半期のが国経済は、米国、中国など海外経済が高めの成長を続ける中で、国内の生産、設備投資など企業部門の好循環の影響が雇用などの家計部門にも波及し、着実な回復を続けております。

当社におきましても、前期に引き続きお客様企業におけるコスト削減や競合会社との価格競争等の影響による受注単価の下落傾向は続いておりますが、情報サービス事業の主力サービスであるマーケティングチェーンマネジメントサービス事業を中心に付加価値の高い新たなサービスを提案し、コールセンター/コンタクトセンター、デジタルマーケティング関連の新規案件を獲得した結果、引き続き売上高を拡大することができました。

利益面におきましては、当社の事業特性上、4月に採用した新入社員が100%稼働するのは第2四半期以降という要因があるため、第1四半期は他の四半期と比較すると相対的に利益率は低い傾向にあるものの、前期に引き続き営業力の強化を行い、情報サービス事業においては7.9%の営業利益率を確保することができました。また、ベンチャーキャピタル事業においては、保有する営業投資有価証券の一部を売却した事により、四半期ベースで黒字転換することができました。さらに、保有する投資有価証券の一部売却に伴い、経常利益、四半期純利益も大幅に増益となりました。

以上のような状況のもと、当第 1 四半期の業績は、売上高 23,124 百万円(前年同期比 28.2%増)、営業利益 949 百万円(同 2,752.4%増)、経常利益 2,723 百万円(同 411.2%増)、四半期純利益 2,177 百万円(同 966.3%増)となりました。

### (2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産		株主資本		株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円		百万円		%	円 銭
17 年 3 月期第 1 四半期	85,129		55,149		64.8	2,376.39
16 年 3 月期第 1 四半期	64,790		49,725		76.7	2,038.24
(参考)16 年 3 月期	71,136		54,084		76.0	2,329.80

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	3,197	1,756	9,476	29,619
16年3月期第1四半期	1,178	105	21	16,034
(参考)16年3月期	9,108	5,142	3,231	15,183

〔財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等〕

資産、負債及び資本

当第1四半期末の総資産は、85,129百万円となり、前年同四半期末に比較して20,338百万円増加いたしました。増減の主な内容は以下のとおりであります。ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の発行に伴い、現金及び預金が増加した事などから、流動資産が11,889百万円増加いたしました。また、投資有価証券の時価評価差額を計上した事により、固定資産が8,449百万円増加いたしました。株主資本は、前年同四半期末に比較して、5,424百万円増加し、株主資本比率は64.8%となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動におきましては、3,197百万円の資金の増加となりました。

投資活動におきましては、投資有価証券の売却による収入1,990百万円、無形固定資産取得による支出297百万円等により、1,756百万円の資金を得ました。

財務活動におきましては、ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債の発行による収入9,979百万円、配当金の支払696百万円等により、9,476百万円の資金を得ました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前年同四半期末に比較して13,585百万円増加し、29,619百万円となりました。

(参考)四半期個別経営成績等の概況(平成16年4月1日～平成16年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	19,677	640	2,497	1,445

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	82,665	58,416

3.平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	44,500	3,400	2,800
通期	83,700	5,500	3,500

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 150円81銭

〔業績予想に関する定性的情報等〕

当中間期における売上高は、情報サービス事業の主力サービスであるマーケティングチェーンマネジメントサービス事業(コールセンター/コンタクトセンター事業、デジタルマーケティング事業)の受注が引き続き好調に推移し、開発サービス事業においても自動車メーカー向けを中心とした設計支援業務の受注が好調に推移したことから、当初予想を連結・単体ともに上回る見込みであります。

利益につきましても、当初予定していた株式売却を前倒しで行っている状況から、連結・単体ともに経常利益、当期純利益のいずれも当初予想を上回る見込みであります。

なお、通期の業績予想につきましては、今後の計画の進捗状況を見極めたうえで、必要に応じてあらためて公表する予定であります。

(参考)平成 17 年 3 月期の個別業績予想(平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金		
				中間	期末	
	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭	円 銭
中間期	38,500	3,400	1,700			
通 期	73,500	6,000	3,100		20.00	20.00

なお、上記の予想数値は、業界の動向、顧客企業の状況、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の数値と異なる場合がありますのでご承知おきください。

以 上